

全日本テニス選手権にて瀬間詠里花、渡邊聖太がダブルスで優勝！

松田美咲は準優勝

Tennis.jp 記事より

<https://tennis.jp/news/archives/340621>



©2023 鯉沼宣之 (Tennis.jp)

テニスの聖地有明で、日本最高峰のタイトルをかけ、選手たちが凌ぎを削る「三菱電機ビルソリューションズ 全日本テニス選手権 98th」(10月28日～11月5日)。11月5日(日)は男子シングルス決勝、男女ダブルス決勝の計3試合が行われた。

女子ダブルスは第1シードの伊藤あおい／瀬間詠里花(SBCメディカルグループ／橋本総業)が、6-3、7-6(4)で光崎楓奈／松田美咲(フリー／橋本総業)を倒し、初優勝に輝いた。ロブから足音も立てずにネットへつく伊藤、強打でストレートを打ち抜き気合を見せる瀬間、2人のダブルスは静と動、クールとガッツというような、不思議なケミストリーを醸し出した。

「落ち込んだ時や大事な時に瀬間さんの声や気合が励みになる。私が持っていないものをたくさん持っていて補っていただけている」と伊藤が言えば、「あおいちゃんはいつも冷静で、私がヒートアップしてしまうところを的確なアドバイスをもらえる。迷ったときに判断してくれて、10代だけど10代じゃないみたい」と信頼を置く。

今年が19回目の全日本出場となる34歳の瀬間詠里花は、混合ダブルスの優勝はあったが、女子ダブルスのタイトルはなかった。

「(陣営の) みんなの顔を見て頑張れた。全日本は日本で一番大きな大会ですごく重圧もかかる。今年は本当に頑張ってきたので.....今は頑張ったら本当にいいことがあるんだなと思った」と涙を見せた。

また、瀬間は「全日本は重みのある大会。ここにかける選手はITFで優勝する以上のものを得られると思う。メディアにも取り上げられるし、歴史に名前を刻める」とその価値を語り、19歳の伊藤も「他の大会より緊張するけど、ジュニアも含めて日本一というのは大きいと思う。やっぱりグランドスラムに出ないとテニス選手としてなかなか知られないけれど、全日本を取ったというところでステータスを得られる」と続いた。



男子ダブルスは、第2シードの市川泰誠／渡邊聖太（ノア・インドアステージ／橋本総業ホールディングス）が、6-3、6-2で第4シードの田口涼太郎／羽澤慎治（Team REC／JCRファーマ）を破り、初の決勝進出で優勝を成し遂げた。

ジュニア時代にも組んでいた市川と渡邊は、互いに息の合ったプレーを見せた。最近はお互いシングルスを優先しており、常に組んではいないが、ITF優勝の実績もある。

また、先のATP500大会、ジャパンオープンでは、2人とも違うパートナーでダブルスの本戦を戦った。

「マクラクラン勉強選手と一緒に練習して、考え方から、技術まで全てが一新された。そこから2週間くらい、こういうダブルスがしたいというのが明確になった」と渡邊が言えば、市川も「フリッツやシュワルツマンの試合を見て、ボールの威力の違いや、自分に足りないものがわかった」と試合だけではない収穫を感じていた。

初の全日本タイトルには「やっと終わったなと思った」（渡邊）「うれしいというのもありますが疲れた」（市川）と安堵の表情を見せる。

ATPツアー初出場を良き経験に、失セットゼロで果たした優勝への道は、もう一つの良き経験として彼らの糧となっていこう。



©2023 鯉沼宣之 (Tennis.jp)

写真左端が松田美咲。左から3人目が瀬間詠里花

#### ■瀬間詠里花のコメント

19回目のチャレンジで女子ダブルスで優勝することができて本当に嬉しいです。たくさんの方に喜んでいただいて、嬉しく思います。次は日本リーグになるのでチームに貢献できるように頑張ります！

#### ■松田美咲のコメント

いつも心強いサポート、ご声援本当にありがとうございます！！初めての全日本選手権決勝戦でとても緊張しましたが、たくさんの方々の応援が力となりプレーすることができました！結果としては悔しいですが、次は笑顔で終われるようにまた頑張ります！今後ともよろしくお願いいたします！



©2023 鯉沼宣之 (Tennis.jp)

#### ■渡邊聖太のコメント

優勝した時は楽しくやりきれたっていう思いがとても強く、目の前の一戦に楽しんでプレーできたのが結果につながりとても嬉しかったです。

プロになる時に立てた目標の1つに全日本選手権優勝を掲げていたので1タイトルを取ることができ嬉しく思います。

